



門へ利
4113

印目ニ「よむが君」トアリ。本書曰、東大
竹冷文庫蔵「論大名」ト同一内容。ヨツテ題名
ヲ「論大名」ニ改ム
昭和48年4月



Handwritten scribbles and characters at the top of the left page.

美産を助て出あふひるは人あ
され里何ああくとかこあきん
やれ扇れああえららあすか
あひいひあああああああ
二見深いあああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ



身は上より下への涙を流す
わらわは面を翳して涙を流す
中をうけておし己の目れくくへ
いふして乃 柳をきみんかこ何や
いくせ成かてあし 柳をきみんかこ何や
スットンとてんてんてんてんてん
字地きん杖の下よりりも黙とて
石舟ありまきふ世のうらみのを
あのかたをまはるなれと成

やまつゝしは海を流す
舟をひきおこす
百をかくる海を流す
声は流す
くさ味をわくをこる
刈るものことわく
流す海あり
くさ味をわくをこる
刈るものことわく
流す海あり

右に老後の危れハあり一穴よりと
一油ハあり一晋子ハ酸ハあり一れも
けあり一存金ハあり一もあり一た章
あるあり一機屋ハあり一あり一あり一地
ハあり一息ハあり一をく一風車ハあり一不
法ハあり一も一松ハあり一松脚ハあり一挽
尾ハあり一断歯ハあり一法ハあり一法ハあり一
無ハあり一他ハあり一也ハあり一も一松脚ハあり一
酒腸ハあり一はあり一獨酌ハあり一
格枝ハあり一

ついで昔中
長風ついで

龍も也やその別海人冬も出せ其角

佳期

十二支ハ不素襖乃龍宮カリ
木代也救龍ノ境ヤ松ノ角 菊陽 格枝

官城

雷ハ龍也龍も虎乃松ヤトあり 遊祖
運上ハ龍羊ありと冬糸付み 隈子

祈世

阿阿ハ世ヤ女一社乃龍カリ 泊洲
胡日照る雷の根は人起ていさ 山夕

沸火白くありちう曲の祓すゑ 九臯

所名

濠州毛枯もて嘗の火の神宮 青流

火日晴く清見ヶ園に木の系籠 琴風

室候ふさしての枝たれゆきさうの 行霞

あぶらうの大江山ゆり大根引 千州

茅舎買水

氷若く偃扉の咽須る流浮り 長

寄關路

物者は盗人さうか小舟一ひれ 眉丘

粟判を粟ふ引れさう不彼れ雲 貞佐

遊戯

あれ枕あり海流ふあり 荒哉 秋色

晴てな紙柱おまありおれ 雪凍

流音やぬの字造で常凍系 掉歌

花祝

うきさうりて夕暮や子供ら 白雲

家乃内ふき満る雲や丸氣 東潮

老胤羹樵乃下也 喜見據山芝

穿墻

終乃冥也也也 柔のそと 遊祖

館下

大思れ鼻ハ河海の楚之穂の香 琴風

種相れ齒新ふらとと柔ゆく魚 北鯢

母魚のそと柔喰ひふらとと 格枝

衰

幸哉かある月の福すも冬は肌 一雀

卒於婆下りの火燵小休す 亂絮

幻

霞影ハ一口何留といはとまら 有棟

倉有餘糧

山里乃冬は醋瓮の福すはる 紅雪

鹿ふゆと雉も氣や 鹿乃と穂半 楮李

半町は去るはや 蔵は冬ころり 涼茄

尾羽ふゆり 齒を磨也 柔の夢 川柝

函懐

福の世に霜の菊や種ぢりひ 闇指
はれなれや ねお端端 狹子喰 翠兒
霧やけや 福すこ 小碓さく 火吹竹 山芝

拱元

眼の魔ふみとれを せさく 桶や 米 格枝

船中

何となく 宇宙をせさく 窺舟チヨキ 東海
舟縁のしふぬさく 玉管のゆるさ 桐子

家潤

山雲の影 楊ふけ 海や 白福すき 岩翁
何となく や 中判 船さく 山すき 伴露
猫の古い 船さく 山すき 冬あかり 利 沾風

旅情

茶陣の菊を 空を 一 おま 柱 出紫
横這の 福あま 大根 花 志を 海 初立

昏藏

かす 海 南へ とも 小 月子 二の 那 雪凍

開法

後筒と志して世氣をこの満く 千山
木がしや推を度海そのま氣 菊陽
トも天小荒陵山乃油の 尺樹
氣を冬を禪尼の粘篋 和推
年此度や般若のむれ氣喰 專吟

市中

浦通り冬を毛よりや 静なりさい 東雲
瀧をくわうのまりのさうハ波 來示

昏

又瀧乃いそく 齒はくく 祿すく 立永

且

排海に因が裏のぬや 濱おより 遊祖

東巷

ぬくちる中ふ 柿す 冥能 啼 ねん 眞化
高の池や 鮎のつと 依 芥 芥 川 梅雷

往來

細なやまのつら 才 齒 音 由 安 又の 表 又 眞
仙 東 越 五 北 嵐 区 巾 の 涉 用 二 の 為 朝 水

いり粟小冬あをありそこのは 箕率

偶真

箒子と和風出波と姿あり里 菊陽
妹の戸や戸物か履て冬かま 眉丘
白氣是 西王母一の足袋喰ひ 齋谷
鏡汁や 嵐あつち庵 鳥漸
其のく 雲の芭蕉や 奇詠集 北郎
まをた子れお糸の綿さかじ 山芝

藝妓あのみ
捨成ちあて狂小

袖裾のはは倍えんかひり 久徳次 格枝

寵愛

妹のあまそ前乃足えさよ十巻 其角
花洗浦や 祢之と無人 粟枝 格枝

翻盆

久事母ふりの里ちね年 寺氣 思間

柵橋の夜泊 寝てくしり 青柳くし
空山寺はいたるくしり 大音寺く
うしり 空山寺はいたるくしり 大音寺く

必軒遊

兼好や冬之遊のよき候也

秋色

老中慶長を綿入し片上格枝

凡棄れ破縁と紙の玉付て清流

此よりて水無縁す御

菊陽の月の中菊片杖極しく

瀟々しく五節の如き御

體極く還城樂は御

自然に居るは下戸の未末記

二里之里に御換へて

齒也か河は是生滅法

此書たり平なるに御

梅子持守り中水車

氣遠なる書り御

合天井は御御

旅の月を下に御

阿方たり川系なる御

是候なりと御

洲 陽 流 枝 色 流 陽 洲 佐

三日月夜波流枝 出かきり
次乃言之端不雨魚化露満云
古記ハ秋をふとてこれの雲丹
雨雲ハ皇帝教也と云々云々入
中ノ也ハ中ノ也云々云々一啓
松ノ寮棟乃寮也物里足熟
雞頭也云々 舟筒葉平
小舟也云々云々ハ雲云々云々
中ノ也ハ中ノ也云々 城乃棟乃也
色 陽 洲 流 陽 作 枝 色 佐

口上乃云々云々云々云々云々
川小と云々云々云々云々云々
十五夜ハ虹也云々云々云々
將動を云々云々云々云々云々
中ノ也ハ中ノ也云々云々云々
阿乃云々云々云々云々云々
お分ハ秋ノ端云々云々云々
洞云々云々云々云々云々
花乃陰云々云々云々云々
陽 枝 流 色 佐 流 洲 佐 枝

油紙舟々 逢春 春分 測

霜後の庭

二物さへ 朝日風とさび冬牡丹 東潮
ふ仙ふち 庭分りや河 日夜 其角
綱寺ふ 春庭 傍系此馬 樹木 格枝
濱地ふ 庭 子かさあ 霜乃楮 遊祖
みと仙 六合の 采乃 茶らん 菊 菊陽
水仙や 傾出れ 名を 夢あつふ 楓江

いとふよ 枇杷波又 舟出せ 思閣
石菖り 夢も ねんや ぬれ霜 其角

琉球の 庭ふ 霸王樹 サツホテ 八ふ 夢あつふ
冠もあつ 春 庭分り 河 日夜 炎
暑とさ 庭 子かさあ 霜乃楮 遊祖
簪子 庭 傍系 此馬 樹木 格枝
竹 庭 子かさあ 霜乃楮 遊祖
河 庭 傍系 此馬 樹木 格枝
法見 庭 傍系 此馬 樹木 格枝
七 庭 傍系 此馬 樹木 格枝

梅子 何れ

漢柏ふ理れぬ雲霞しるほしの

格枝

杵のきりけかたけありけり

真花

盤石とてさうらぶりの山雲也

白雲

馬は折ふぬ事元知りむ

菊陽

河吹の十と備とを流り月

遊祖

蜜柑の市ふ米汁海へせ

琴風

水色組ハ切巻と伎さうゆれ

陽

富士り下とふ高らの半

枝

なまはし流世ハ韻ハ納あり

花

家の中牡丹の名ハ雲井近

祖

お糸り入る秋立分初りさ守

風

日さし花授ハ真徳の傍

雲

星雲の穴も巻巻と何こう也

枝

月かきそや〜梅樹あり花

花

杉林の吹おほけも危お全

祖

〜と長来子初花枝傳

雲

花れ山祥花枝〜意もな〜

風

河風鳴や〜梅作と松及

陽

好く謝りたる乃馬刀さげて
 流し穿つる八幡千一落着
 登るもさしあ足袋うろくむく
 四分一二把かり武社海
 袖の裡何れをさし流包菓子
 美ふたふれ一白宮なり
 豁穴乃伯母の許へかき忍守
 瘡のりやちる海とびる海さ
 かりむけ八雷いもさし朱肉搦
 祖 枝 雲 風 祖 風 祖 陽 祖 風 祖 陽

榎招の志をれみ業か依り
 流川とらあくと月をより
 帙を此いさ海とらら子
 て飛ぶあいる海原ハ熟なり
 衣たり蹴りぬゆるす小便
 雲を曳筏流りもそ奇異皆
 揚枝あらしもさしれ松
 四つ海の踏躡ハさかたて必死
 夕ア、りらけ流さ流る様
 祖 枝 雲 風 祖 陽 雲 枝 祖

題混雜

寒山画賛

拾得乃凡中にかつひや玉帯 其角
 雪や 縹紅菜汁ふれりて 治洲
 小梅子の花さくやうか病 格枝
 今朝のねとみ菜小梅の地甚好 秋色
 霜志をのび夕久れ乃梅は或 菊陽
 雲とわりの日和なりやとつ梅 負化
 春や到り 酢れおれ宿ふ梅の心 淡々

旅業たりもゆたかりひは春は毎 遊祖
 矣約毛柳の糸は 葉の曲 有棟
 涅槃も云もくもくは清世の月如六 思間
 門内へさうて入流をさ踏たりう 格枝

市間喧

流け本屋のよちう是れは 其角
 物守以合歌て下海音り那 白雲
 菽入やぬの若造たり隠し 格枝
 山里ハ人成ゆれれは 其角

就智尾不語狀ハ新ク花乃發 沾徳

會秀亭

初獲瓜瓜と云。此瓜也白瓜人冠里
牡丹有瘻乃蓋瓜也人冠里
瓜瓜人親の甲小瓜瓜つて全
初瓜目ト瓜瓜瓜瓜瓜瓜 其角
中瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜 眉丘
吉瓜也瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜 東雲
八瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜 北觀

重五

河本北宿行を云々 憾乃 沾徳
葉房と瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜 格枝
天窓瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜 東流

幄

瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜 沾列
瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜 千山
瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜 格枝
瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜 思間

愛娘子

新鳥の卵も人致ハ新りり星 其角

宝鷗池塘

鴨子も東に新鳥の細工 格枝

高田眺望

下関の山もあつた此邊の嶽 遊祖

乞巧

流那の市も星と海や新使 雲中

鬼打の河も林の尻も新鳥 真仇

星合の山も赤川も新鳥 琴風

流星の山も新鳥も新鳥 其角

身も新鳥も新鳥も新鳥 菊陽

とり火も新鳥も新鳥も新鳥 眉丘

発声

立ちも新鳥の中も新鳥も新鳥 真仇

飛つても新鳥も新鳥も新鳥 白雲

空も新鳥も新鳥も新鳥も新鳥 淡々

接も新鳥も新鳥も新鳥も新鳥 靉々 青流

澤菴謫徒羽塞偶著作一
字三字之說上中下君臣
父母夫婦兄弟僧俗不相
通之義也後逢赦再歸江
府不為放鳩望卿之魂而
得東歸林之喜幸矣哉

謫中愁吟

中

三夜一吟
萬劫千劫宗劫之乃又其前
月見下高根の雲北清定家遊祖
楊杭乃臆當志也子月の人格枝
大杉の世いへる守るる思間
勝江の好風入りりあれ月捨草
新く心も九を片あつと記有棟
藏部序中
新月乃別後志らく木賊符格枝

三夜一吟

萬劫千劫宗劫之乃又其前
月見下高根の雲北清定家遊祖
楊杭乃臆當志也子月の人格枝
大杉の世いへる守るる思間
勝江の好風入りりあれ月捨草
新く心も九を片あつと記有棟
藏部序中
新月乃別後志らく木賊符格枝

未曉

種竹を子階子も立て見守る八
其角
對乃屋不様人の八條へ菊と又
治徳
辨參也出羽同乃也常花露
濟通
温るあり約と八条あり毛
苗盛
隈子

好月

漢我乃不解乃意一十三
治訓
一より也八今毛倉所乃乃豆
格枝
武士乃お象ふこり
秋色

埃情乃段おかけ

きこしとほるほる
旅子一室

淡々

今ハ我伊勢系ふ乃小おある
菊陽
かけのん取葉ふとり
治訓
生善湯ふ表乃梅枝
尺樹
又尺の籠酒め常花保娘
格枝
株乃おふ月八酒と毛
格枝
地乃笑ふと類
執筆
戸袋乃いり世ふなりハ山橋
真仇

霜天

顔色は鼻端に白く
 白雲
 端場や武士おふく
 沾刈
 水粉の束しらる星
 音流
 十石を穿かなく也
 其用
 西粟何百りの道
 昌貞
 物老や權の穂云古
 沾徳
 捨人方きあの切と
 其用
 河上却や志氣のむ
 格枝

雜司各女世ふ

貞仇

大根はいまや引ら
 貞仇
 新粉は子お粉の
 格枝
 赤いを喜禰に
 菊陽
 松葉かゝやら奴
 仇
 沓ゆく借切る喜
 枝
 多網さくらたハ
 陽
 菊枝ゆふはう
 全
 格枝

しん

十九

宝永丁亥臘月下院

彫工

吉田宇右衛門

